

課題名	土場軟弱地の更新について				
課題区分	営林局自主課題	開発期間	昭和三十三～三十七	担当	造林課
目標	自動玉切装置跡等、標地化して堅固となつた土場軟弱地を、早期に確実に変更する方策を探索する。				
結果	<p>1. 中新田署 昭和三十六年度の調査に基き、植付(スギ)を行つたが、風衝のため枯死し、調査も中止した。</p> <p>2. 仙台署 調査結果取りまとめ表のとおりあり、次のような傾向がうかがわれる。 1) 植付が標地の残存率は、作業道跡、土場跡、盤台跡、何れも機械植付が機械植付パーク堆肥施肥植付を上回つてゐる。 2) 区別別別の残存率は、作業道跡が盤台跡を上回つてゐる。生長状態等も含めると盤台跡は、区別の中一者条(ア)と同等と思つた。</p>				
開発経過と調査内容	(中新田署の調査結果に基き、仙台署の調査も中止した)				
	昭和三十七年度 盤台設置箇所、土場軟弱地、作業道跡地をそれぞれ別の区別として調査した。スギを植栽して、残存率や生育状態を調査した。				
	1) 植栽機械にのり起し植栽を行つた箇所				
	2) 植栽機械にのり起し、さらにパーク堆肥を施して植栽を行つた箇所				

調査結果とりまとめ表

1 昭和三十三年度スギ植栽箇所の本数推移表

区分	方法	植栽時A	健全木B		被害C		枯損D		現存本数E		現存比率E/A×100	
			53年	57年	53	57	53	57	53	57	53	57
A区 盤台	○機械	21	18	17	1	1	2	3	19	18	90	86
	△パーク堆肥	30	21	11	6	1	3	18	27	12	90	40
B区 土場	○機械	26	21	20	0	0	5	6	21	20	81	77
	△パーク堆肥	25	17	14	5	1	3	10	22	15	88	60
C区 作業道	○機械	20	19	19	0	0	1	1	19	19	95	95
	△パーク堆肥	28	23	20	3	0	2	8	20	20	93	71

2 昭和三十三年度スギ植栽箇所の生育調査表

区分	方法	樹高						比率 F/A×100	枝張り		根元径	
		53年A	53年B	54年C	55年D	56年E	57年F		57年	57年	57年	57年
A区 盤台	○機械	43.5	43.9	44.1	44.7	68.0	108.7	260	84	25.4		
	△パーク堆肥	42	44	57	57	74	107	255	79	22.5		
B区 土場	○機械	42	50	65	86	111	149	356	103	31.7		
	△パーク堆肥	46	49	91	124	156	174	378	110	26.0		
C区 作業道	○機械	45	46	63	98	140	215	478	140	52.3		
	△パーク堆肥	48	57	92	103	135	164	342	115	36.4		

評価及び普及指導

土場が堅固化している上、苗木投棄等が根入り、理容性が悪くつてゐる。箇所については更新状況がよいため、土壌条件を良くしてやるべきであり、普通造林地に近い状態が解存であることが解つたため、今後この方法を他の箇所にも適用するべきである。